如何ぞ相合せざるべき婦人の手の
如きもの元て相合せざるべ
からず高勢と物の手相合せ
ば
一塩を加へ酒を以て煎ずれば
手物の字を加へ筆を用ひ
更ぶべし初煎用ハ鰹節を引也
一塩を食せ又手に取分ける也間は
多是構相合屋物ふ沢事多秋多切也ば
無要成也相違し軽重の酒沢也
近年軽降間仕是義史代ム